

平成30年度(2018年度)部会研究のまとめ

I. 研究の概要

1. 研究主題

伝え合う力を高める授業の創造
～思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して～

2. 研究主題設定の理由

① 研究の経過について

昨年度までの研究において、国語の特質を身につける学習に取り組んできた。今期は、身に付けた国語の特質を活用することで、言葉のよさに気付く児童の育成を図ることができる。

② 主題「伝え合う力を高める授業の創造」について

言葉のよさに気付くことで、互いの考えや立場を尊重し、言葉を通して正確に理解したり、表現したりする力を育むことができる。

③ 副題「思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して」について

読み取る学習活動の中で身に付けたことを基にした表現活動の工夫により、論理的に思考する力や、豊かに想像する力を養うことができる。

3. 研究仮説

言葉を手掛かりとした論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う表現活動を工夫することにより、児童に伝え合う力を育てることができる。

4. 研究内容

「読むこと」領域の「文学的文章教材」における「表現活動」場面

- (1) 「思考力、想像力」を高めるための表現活動の実践…「表現のしくみ」系統表の活用を通して
- (2) 6年間の指導事項の系統性を念頭においた、身に付けさせたい力を明確にした学習指導

5. 研究方法

- (1) 平成30、31年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。
- (3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、以下の要領で部会研究を進める。
 - ・授業学年の文学的文章教材について、「どの教材でどのような力を身に付けさせたいか」また「どのような言語活動がふさわしいか」を、児童の実態を鑑みながら検討し、年間指導計画を作成する。
 - ・年間指導計画に沿って、公開授業単元の学習構成を検討する。
 - ・授業公開後、事後研を持ち、提言をまとめる。
- (4) 実技理論研修会を開催し、今研究に関わる学習および日常の実践に生きる学習の場を設定する。
- (5) 第25期に作成した『「表現のしくみ」系統表』を改訂し、年間指導計画作成の際に役立てられるよう、HPにも掲載する。

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過（全体研究）

（1）研究経過

- 4月10日 石教研第一次研究協議会・国語（小）部会 第1回役員研修会
研究計画の概要の確認など
- 4月13日 各市町村専門部会第一次研究協議会
- 4月下旬～9月中旬 研究協議・研究授業・各市町村専門部会第二次研究協議会
- 5月15日 専門部会役員研修会
- 5月17日 国語（小）部会 第2回役員研修会
- 5月24日 国語（小）部会 第1回推進委員研修会・第3回役員研修会
- 6月28日 国語（小）部会 第4回役員研修会
- 7月12日 国語（小）部会 第2回推進委員研修会・第5回役員研修会
- 7月19日 国語（小）部会 臨時役員研修会
- 8月31日 国語（小）部会 実技理論研修会
- 9月11日 第1回教育課程研究委員研修会
- 9月13日 国語（小）部会 臨時役員研修会
- 9月28日 国語（小）部会 石教研専門部会第二次研究協議会拡大推進委員研修会
第6回役員研修会
- 10月12日 石教研専門部会第二次研究協議会・第7回役員研修会
- 11月6日 国語（小）部会 第8回役員研修会（第1回編集委員研修会）
- 11月9日 国語（小）部会 第3回推進委員研修会・第9回役員研修会
（第2回編集委員研修会）
- 12月20日 国語（小）部会 第10回役員研修会（第3回編集委員研修会）
- 1月24日 国語（小）部会 第4回推進委員研修会・第11回役員研修会
（第4回編集委員研修会）
- 1月31日 第2回教育課程研究委員研修会
- 2月上旬 各市町村専門部会第三次研究協議会
- 2月14日 国語（小）部会 第5回推進委員研修会・第12回役員研修会
- 2月中 第3回教育課程研究委員研修会

（2）研究成果

- 推進委員研修会および役員研修会を通じて、石教研専門部会第二次研究協議会開催に向けた実践研究の方向性、改善点などを明確にすることができた。
- 石教研専門部会第二次研究協議会拡大推進委員研修会などの機会を通じ、各サークルの取組状況や分科会討議の方向性を確認することができた。
- 文学的文章教材についての様々な表現活動について実践交流を行うことができた。

2. 専門部会第二次研究協議会での交流

（2）専門部会第二次研究協議会での交流内容



① 授業公開の様子（低学年）

1年生 教材名「りすのわすれもの」

授業者：阿部 まりえ 教諭（北広島市立双葉小学校）

本時の目標：自分が気に入ったところを紹介しあったり、友達の紹介に興味をもって聞いたりすることができる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1. 学習課題をつかむ。	○課題を提示する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④ガイドになって、「りすのわすれもの」の気に入ったところをしょうかいしよう。 </div>		
	2. 活動の進め方を知る。 3. 話し方（紹介の仕方）のポイントと聞く時のポイントを確認する。	○活動の進め方を説明する。 ○ポイントを掲示して、確認できるようにする。	

展開	<p>4. 前半と後半に分かれ、ガイドになって気に入ったところを紹介したり、お客さんになって聞いたりする。</p> <p>しょうかい名人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいてにきこえるように、はっきりはなす。 ききかた名人 ・あいてのいいたいことを かんがえながらきく。 ・はなしがおわるまで よくきく。 	<p>○ペアでの紹介を繰り返し行わせる。</p> <p>※紹介することに喜びを感じながら、本教材での学習内容（時間や事柄の順序を考えながら、内容を読む）の定着を図れるようにする。</p> <p>読み取ったことをもとに、紹介カードを作成していた。</p> 	<p>うまく紹介や感想を言えない児童に応じた声かけや支援を行う。</p>
	 <p>4. ガイド→紹介カードを見せながら話す。 お客→話を聞いたらお客さまシールを渡す。</p>		
まとめ	<p>5. 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを黒板にはって、時間軸や季節で仲間分けする。 	<p>○次の時間から自分で選んだ動物の本を紹介することを伝え、物語を読むことへの意欲を高める。</p>	

○協議内容および成果と課題（低学年）


- ・「ガイド」と「お客」という発表形態で、「お客」が感想を述べたりシールを貼ったりすることで、児童の意欲付けにつながった。
- ・黒板に発表のひな型があって、児童はそれを確認しながら取り組むことができ、有効だった。ひな型を以後の学習でどう生かすかが大切である。
- ・読み取りに時間をかけたことで、立派な紹介カードを作ることができ、充実した表現活動につながった。


② 授業公開の様子（中学年）

3年生 教材名「わすれられないおくりもの」

授業者：大根田 博 教諭（北広島市立西部小学校）

本時の目標：今まで読み取ったことをもとにポップカードの内容を考え、物語を紹介する文章を書くことができる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	<p>1. 前時までの復習</p> <p>2. ポップカードを見て、感想や考えを発表する。</p> 	<p>○ノートや紙黒板をもとに振り返る。</p> <p>○教師作成のポップカードを提示し、学習の見通しを持たせる。</p> <p>2. 紙黒板で読み取ったことを振り返り、ポップカードの作品例を見て、見通しを持つ。</p>	<p>紙黒板を掲示。</p>
展開	<p>3. 課題を確認する。</p> <p>④読み取ったことをもとにして、「ポップカード」を作ろう。</p> <p>4. 大事な点と盛り込む必要事項を確認する。</p> <p>5. 提示された2つの紹介文のどちらが適切か、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア交流 ・全体交流 <p>6. 紹介する文章をワークシートに書く。</p>	<p>○課題を板書する。</p> <p>○大事な点（見た目など）と必要な事項（題名など）を伝える。</p> <p>○2つの紹介文を提示する。</p> <p>A…あらすじのみの紹介文</p> <p>B…「おくりもの」の意味と心に残った場面に触れた紹介文</p> <p>○書く時の留意点をまとめて話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず書くこと、文字数など。 ・「ヒントのドア」を見ても良い。 	<p>ワークシートは2種類から選ぶ。</p>

まとめ	7. 全体で交流する。 ・代表数名が発表する。	○書き上がった児童を指名し、ワークシートを拡大機で投影する。	
		7. 書き上がった児童数名が前に出て自らの紹介文を読み上げる。未完成の児童は、それを参考にさらに書き進めることができていた。	

○協議内容および成果と課題（中学年）

- ・文章だけでは伝わらない良さを、絵や切り絵などを織り交ぜながら効果的に伝えることができる点で、ポップカード作りは有効な表現活動である。
- ・紙黒板の工夫や「ヒントのドア」、2種類のワークシートなど、すべての児童が学習内容を理解し、活動するためのアイデアが豊富で、素晴らしかった。
- ・表現活動の時間を確保するための短時間での読解や、書くことに対する抵抗を減らすためには、日常的な積み重ねが大切であることを再認識した。

③ 授業公開の様子（高学年）

5年生 教材名「雪わたり ～『図書すいせん会』を開こう～」

授業者：阿部 真也 教諭（北広島市立緑ヶ丘小学校）

本時の目標：図書すいせん会に向けて、本の特徴をとらえたすいせんの仕方を考えることができる。

	児童の活動	教師の働きかけ	留意点
導入	1. 課題を把握する ① 図書すいせん会に向けて、すいせんの仕方を考えよう。	○課題の提示	
	2. 3つの物語新聞が掲載されているワークシートを配付される。	○ワークシートを配付する。	
展開	3. 活動の内容を理解する。 4. 個人で考える。 5. グループで話し合う。 6. 全体で交流する。 ・あらすじがあるので分かりやすい。 ・あらすじで全て書いていないので読んでみたくなる。 ・見所（山場）が分かりやすい。 ・魅力を短い文でまとめている 等	○物語新聞の中から優れたすいせんの仕方を探すことを伝える。 ○話し合いの仕方を確認する。 ○児童の発表の中から、深めたい点について問い返し、優れているすいせんの仕方を明確にしていく。 6. 児童の発表したことを紙黒板に書く。作者が思ったことを赤、読み手が感じたことを青で色分けする。	
	7. 優れたすいせんの仕方は、物語の魅力を伝えていて、読み手が分かりやすく書いている。 8. 次時の学習内容を知る。	○次時の予告をする。	
まとめ			

○協議内容および成果と課題（高学年）

- ・年間を通じて、文学的文章の学習後の物語新聞に取り組み、互いに新聞を読み合ってきたことで、伝え合う力を育むことができた。
- ・これまでの表現活動の取組をフィードバックする時間を設定することで、「図書すいせん会」に向けて、何に留意すると効果的であるのか整理し、理解することができていた。
- ・新聞作りに繰り返し取り組むことで、他の学習に転用することのできる表現力を育成することができた。

(2) 専門部会第二次研究協議会での協議内容

低学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○「音読シート」に読み取った気持ちを書き込んだことと、「音読の技」を掲示して常に意識させることにより、音読の表現力が高まった。(千歳)○吹き出し型のワークシートを使って、登場人物の気持ちの変容を読み取ることで、話の続きを想像して書くことができた。(恵庭)○6年生に対して音読発表をするという目的意識を持つことで意欲が高まった。情景を読み取り、音読メモを利用したことで、作品世界にひたりながら読むことができた。(江別)○写真が表していることを本文から読み取り、一番気に入った写真について、理由をつけて発表することができた。(石狩) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●読み取ったことをどのように表現活動に生かすか、低学年という発達段階を考えると、できることが限られてしまうので、工夫と意欲付けが必要である。
中学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○ブックトークに取り組む前に、「プレブックトーク」を行ったことは、児童の表現の幅を広げ、発表の工夫をするのに有効であった。(千歳)○日記とともに、ごんぎつねの顔を描く活動を行ったことは、児童がイメージを共有できるとともに、書く意欲を引き出す良い手立てであった。(恵庭)○グループに分かれて並行読書を行ったことで、読み取りの苦手な児童が他の児童から読み取り方を学ぶことができた。また、「思いのとびら」を作り、交流することで自分の考えに自信をもち、国語への関心を高めることができた。(江別)○マスや罫線の無い付箋や白紙に書くことを毎時間設定したことは、児童に書くことへの抵抗感を減らすための手立てとして有効であった。(石狩) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●表現につなげるために、本文の内容(心情・情景描写)を児童にどのようにつかませるかが大事である。●書く力を付けさせるために、日常的な活動の工夫が必要である。
高学年 ブロック	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">○大造じいさんの語りで心情を書き加えて「日記」の形にした。日記の形式にしたことで、児童の書く意欲が高まった。(千歳)○大造じいさんの立場から物語を書き換えたものを交流したことで、心情のつけたしができるようになった。(恵庭)○1年生に向けて物語文を書いたものを交流することで、他者の考えを取り入れることができ、なかなか書き進められない児童のサポートになった。(江別)○ポップ作りを通して多様な考えを引き出せた。意欲的に活動できた。(石狩)○フライヤーの中に魅力を表現する一文を入れることで、児童の読み取りを見取ることができた。また、フライヤー作りをすることで一人一人の達成感があつた。(当別・新篠津) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">●表現活動は、目的なのか手段なのかあいまいであった。読み取りが浅いと表現活動も表面上のものになってしまうため、言葉を大切にしたい読み取りが必要である。●児童の実態を的確に把握したうえで、単元全体を見通した指導計画を立てる必要がある。

Ⅲ. 教育課程研究

1. 研究の経過

今年度は、各学年の文学的文章教材の「表現活動例」を作成するとともに、「石狩管内小学校教育課程基底編」を作成した。

2. 研究の成果・課題

研究主題にある「伝え合う力を高める」ための表現活動例を「表現のしくみ」の系統性に着目して作成した。石教研第二次研究協議会で各サークルから提言されたものとは別の「表現活動例」を作成し、部会報「はまなす」に掲載したので、今後の指導に活用していただきたい。

また、「石狩管内小学校教育課程基底編」は、今後の教育課程編成の拠りどころとして役立てていただきたい。

Ⅳ. 実技理論研修会

1. 研修会の内容

「子どもの表現活動に生きる読解の授業づくり～生き生きと表現させるために、いかに読ませるか～」

講師 筑波大学附属小学校 教諭 青木 伸生 氏

8月31日（金）江別市立中央小学校4年生

今年度も筑波大学附属小学校より青木教諭をお招きし、部会の研究主題に沿う内容で、文学的文章教材を扱った読解場面の授業公開と、講演会を開催した。前半（第1部）は、公開授業とその後の解説および質疑応答を行った。後半（第2部）は、講演の中で、研修会テーマや新学習指導要領に関わるお話をいただいた。

2. 研修会の成果

国語部会員を中心に、90名あまりの参加があった。

第1部は、4年生教材「一つの花」の導入段階の学習活動を公開していただいた。青木教諭の提唱する「フレームリーディング」の手法を基本に、教材文全体を「対比」に着目させながら読み取って行った。「一つの花」は、戦中と戦後の2つの時代を描いている。その様子の違いに着目させることで、少しずつ物語の主題に迫っていく巧みな展開と、児童の言葉を生かしつつ最終的に2つの時代の対比が浮き彫りになるように工夫された「構造的な板書」は、参加者を感嘆させていた。第2部の講演会では、新学習指導要領で重要とされている「構造と内容の把握」に対して、「フレームリーディング」で読解を行うことや学年間で系統性を持たせて指導すること、構造的な板書を心がけることの必要性や有効性について解説をいただいた。目前に迫った完全実施に向けて、さらに新学習指導要領に対する理解を深めることのできる有意義な研修会となった。



Ⅴ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- 授業者をはじめとする各サークルでの多彩なアイデアを生かした授業をつくることができ、様々な表現活動について交流することができた。
- 表現活動の中で、言葉のよさに気付かせたり、国語の大切さを自覚させたりする手立てを講ずることができた。
- 読み取り場面での知識・技能の習得のために「『表現のしくみ』系統表」を活用することができた。
- 第二次研究協議会の交流の仕方は三年目を迎え、部会員に広く周知され、研究討議の場が活性化した。

2. 課題

- 児童が読み取り場面で身に付けた知識・技能を、表現活動に生かせるような指導計画にすることを確認したい。

（編集：岩崎 晋也 研究員）